

	2 2 3 3 2 2 3 6	N 収穫の季節がやってきました。
9月23日コンバイン	2 2 4 2	N コウノトリを育むお米を刈り取る…。一年のうちで、最も楽しみな瞬間です。
ドローン（稲刈り）	2 2 5 9	N コウノトリと共存できる環境づくり、と口で言うのは簡単です。生産者にとって目に見えるメリットがあるわけではありません。農薬を使うよりも3倍ほど手間がかかり、コストもかかります。
下絵 ドローン（稲刈り）	2 3 1 9	しかし植田さんは自然の中で働く自分たちこそが、率先してやらなければならないのだと言います。
昼食休憩 子どもたち米食う	2 3 3 0	N そして何より大切なのは食べた人の笑顔。我が子のように手間暇をかけて育て上げてきた、安全で、安心なお米の味は格別です。
	2 3 4 7	Q美味しいですか？ 美味しいですよ。 コウノトリのお米ってどんなもんだい？っていうかたちで食べていただくとおいしいってわかると思います。
昼食シーンドローン	2 3 5 9	N 平成15年にわずか0.7ヘクタールの面積で始まった、コウノトリを育む農法。今ではおよそ330ヘクタールにまで拡大し、多くの生産者の手によって丹精込めた米作りが進められています。
米を集める 米出てくる 機械まわる、PU	2 4 2 4	N 当初は、美味しくないという評判がたったこともあるコウノトリを育むお米ですが、生産者たちの絶え間ない努力で味は格段によくなりました。健康ブームの影響もあり、今では一般のお米の2倍近い値段で売れることもある、人気のお米となったのです。
コウノトリ×2	2 4 5 0	(場面転換)
J Aに搬入10月	2 5 0 0	N いくら環境に良いといっても、お米が売れなければコウノトリを育む農法は続けられません。J Aたじ

		までは、このお米の価値を消費者に知ってもらう活動を続けています。
	2521	<p>J A 前回出して頂いたお米の分なんですけども、検査の結果、全て一等で。</p> <p>●本当ですか？ありがとうございます。</p> <p>J A 大変、粒張りもよく美しいお米です。</p> <p>●ありがとうございます。</p> <p>J A 水分測っても 14.5%でしたので</p> <p>●完璧ですね。理想の...</p> <p>豊岡全体的にコウノトリ（を育む農法）いかがでした？</p> <p>J A コシヒカリは1等比率が高かったです。全体で90%を超えてきましたのでかなり安定してますね。</p> <p>●これが皆のところのところにいってくれるんですね。</p>
貯蔵庫	2600	N ここにあるお米の一粒、一粒に至るまで、たくさんさんの命、そしてたくさんさんの思いが詰まっています。
	2610	しっかり噛んでいただいて、甘み・それからコクなどを感じてもらいたいです。それから僕たちの栽培方法の中に、やはり生き物、イトミミズだとかカエルだとか、そしてメインであるコウノトリっていう部分で、そのものたちと一緒に共存共栄をしているということで、それを僕たちが消費者にも伝えて、消費者の方たちが、そのことをかみしめながら、食事をしていただければ一番ベストかなと思ってます。
コウノトリ飛ぶ 12月30日	2643 2648	N 冬。豊岡の田んぼには、並々と水が張られていました。これもコウノトリを育む農法の一環。乾いた田んぼでは生きものが育ちづらいからです。
寄り	2705	N 冬期湛水（とうきたんすい）と呼ばれるこの方法。ワラが良性の菌で分解され豊かな土壌が生まれます。
湯気	2715	
ロング	2719	N 年の瀬も押し迫ったこの日、植田家では餅つきの

臼にあける	2 7 3 5	準備が進められていました。もちろん使うお米は、コウノトリを育む農法で作られた、もち米です。 N 持ち出してきたのは、昔ながらの木の臼と、杵。手間はかかりますが、美味しさが全く違います。これも米作りと同じ。
家族で餅をつく	2 7 4 9	N 子どもたちも手伝います。またこうして来年も皆んな揃って餅つきが出来ますように...健康で無事に一年が過ごせますように...祈りを込めて餅をつきます。
羽二重餅接写	2 8 1 4	N つきたてのお餅の中にあんこがたっぷり詰まった羽二重餅（はぶたえもち）です。
植田さん	2 8 2 5	Qおいしいですか？ うまいです。
皆んなで餅食う	2 8 3 0 2 8 3 6	N こうして田植えから始まった植田家の長い一年が終わりました。
＜エンディング＞		
ドローンタ景とコウノトリ	2 8 4 9 2 8 5 4	N コウノトリを育む農法、
植田家の子供たち	2 9 0 1	N それは美味しいお米と、多様な生き物を産み、育て、コウノトリ「も」住むことができる豊かな環境づくりを目指すものでした。そしてそれは私たち人間にとっても健康で安心して暮らせる環境でもありました。一度は自然界で絶滅したコウノトリ。40年という長い年月を経て再び、豊岡の空に羽ばたきました。
ドローン稲 コウノトリ飛ぶ		N かけがえのない命、自然を再び失わないために、私たちは、いま、何をすべきなのか...。考え続け、行動していかなければなりません。これからも、ずっと。ずっと。
植田家の田んぼ (ミラーショット)	2 9 3 7	
黒味	2 9 5 6	

クレジット	30 秒
エンドロール	20 秒
END	